

ここ数年、国内外でイノベーションについての活発な議論が行なわれている。わが国でも昨年来、2025年の社会に向けて長期戦略指針を策定する「イノベーション 25」戦略会議（黒川清座長）がスタートし、去る2月26日に[中間報告](#)が公表された。

イノベーションとは、単なる技術革新を指すのではなく、経済効果を伴い社会システムを変えるような大きな変革を意味するといわれるから、薬剤師をめぐる最近の変化、すなわち医療の中での立場と責任、業務の範囲と内容、教育制度などに現れた革新的新機軸は、単なる改善、発展ではなく、まさにイノベーション体験の一つといえるものであろう。

イノベーションは人が主役であり、薬剤師の将来も人材養成の成否に懸かっている。戦略会議の資料に見られる「イノベーションを起こす人の育成」についての議論には、新時代において期待される薬剤師の育成にもそのまま当てはまるものが多い。今後、大学での薬学教育、ならびに薬剤師の生涯研修を進める上でこの上ない良い道標となる。特に、黒川座長がメッセージとして紹介された、野中郁次郎先生の[「イノベーター育成」](#)についての資料は、新しい社会に求められる活力ある薬剤師像を描く上で極めて貴重である。

そこには、最も根幹となる『フロネシス』という概念が紹介されているが、これは「倫理の思慮分別をもって、その都度の文脈で最適な判断・行為ができる実践的知恵」と説明されており、そのまま薬剤師にも適用できる。すなわち「薬の倫理の基盤に立ち、あらゆる業務の場で、医薬品と薬物療法に関して正しい評価に基づく最適な行動が取れるような、実践的な身についた能力」ということとなる。

また、『知識の知恵化を支援するもの』という言葉もある。「フロネシスを備えたリーダーは、ことの本質を見極め、その都度最善の行動を起こす。そして、断片的な情報や知識というよりは、状況思考・行動ができる知恵を備えている」と述べられている。薬剤師の生涯研修での研鑽も、知識・技術の記憶・理解にとどまらず、それを身体能 意識や解釈に頼らない動作 にまで高めて、日常の実務で自然にほとぼしる「知恵」となるよう習得したいものである。

薬学教育と生涯研修のいずれにおいても、知識 (Knowledge)、技能 (Skill) と並ぶ、欠くことのできない重要な柱として Attitude (心構え、姿勢、態度、見解) が挙げられている。フロネシスは、最適な思考と判断、および自然な実践行動を導くものでありまさに Attitude に当たる。イノベーター育成におけるフロネシスは、十分に習得した専門的な知識・技能から生まれる最適な評価・判断と行動を意味している。薬剤師教育・研修における Attitude も、しっかりとした専門知識に裏づけされていることが必要である。それを、単純に「態度」と解釈して、練習やマニュアルで安易に学べるものと考えてはならない。

高質な知識・経験の活用、実体験との組み合わせ、技術偏重からの脱却など、教育革新に関するイノベーション 25 戦略会議における議論から、知識 - 技能 - Attitude の相関関係と、教育・研修上のアイデアを大いに学び、薬剤師教育と生涯研修の一層の質的向上を図りたいものである。